

中医体質の視点から見た温熱刺激に対する生体反応の違い

許 鳳浩¹⁾、上馬場和夫²⁾、鈴木信孝¹⁾

1) 金沢大学大学院・医薬保健学保健学総合研究科臨床研究開発・補完代替医療学

2) 帝京平成大学・ヒューマンケア学部・東洋医学研究所

【目的】

外部刺激に対する生体反応には個体差があるとされるが、体質別（中医体質九分類）にそれらを観察されたことは少なく、科学的なエビデンスが不十分である。そこで、温熱刺激（42℃、30分、足浴）を与え、体質別に生体の応答反応を検討することにした。

【方法】

健常成人男女 97 名（37.3 ± 10.7 才）を対象に、文書による同意を取得し、試験に参加してもらった。座位にて膝下 10cm まで浴槽に浸水し、足浴の前、中、後において、①血圧、心拍、②自律神経機能、③局所の体温と血流（血流量、血流速度）、④中医

体質調査票などを記録した。統計解析は paired t-test などを用い、有意水準 $p < 0.05$ 、 $p < 0.1$ は傾向ありとした。

【結果】

同じ刺激に対し、体質別に生体反応の違いがみられ、特に陽虚質の変化幅が大きかった。つまり、陽虚質の特徴として、温まりやすく、冷めやすいことが示された。

【結論】

今後反復することによって中長期的効果が得られるかどうかについて検討する必要があると思われる。